

教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院） 学校教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

教職実践開発専攻（教職大学院）学校教育実践高度化コースを修了するためには、当該課程の標準修業年限 2 年以上在学し、共通科目 20 単位、教育実践研究科目 10 単位、専門科目 18 単位、合計 48 単位以上を修得すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の審査委員会の審査に合格すると、本専攻を修了することができる。

修了した者には、教職修士（専門職）の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：

①全体の方針

本コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力（コンピテンシー）を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

下記枠内に示す。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

- 様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関わるよう、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- 主体的に対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- 教育実践研究（実習）を 10 単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- 教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- 大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講している。

④学修成果の評価の方針

- どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の大学院生の評価点を決定する。
- 教職実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

授業実践、生徒指導・教育相談、学級経営・保健室経営・学校経営に関する高度な専門的知識と研究開発力を持ち、教育現場でチームとしての仕事を組織しリーダーシップを発揮するための創造力及び学校改革のマネジメントに関与する修得するためのカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、教育関連諸科学の知見を動員して、教育現場の複雑な問題を解決する能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、学校や地域が直面する現代的教育課題に対応するための高度な専門知識と幅広い視野を有し、授業実践、生徒指導・教育相談、学級経営・保健室経営・学校経営など学校現場における課題解決のための積極的な行動力を育成し、課題解決のためのコミュニケーション能力を育成するカリキュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダー力

学校・地域・家庭との連携を密にして、学校と地域との交流を深め、地域の問題解決の方法を開発し、地域貢献に資する能力及び学校現場・地域における指導的人材として活躍する能力を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

研究報告書作成 成果報告会

2年次

教育実践研究 III
教育実践研究 II

学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究
教科等の授業開発・実践研究 I～II
教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・
実践研究 I～IV
「豊かな心」を育む授業実践の開発

専門科目

生徒指導問題解決方法 I・II
道徳教育と生徒指導
健康教育の実践研究 I・II
学校保健の理論と実践

学校と家庭・地域の連携構築
学校の危機管理の理論と実践
教育コミュニケーションデザイン特論

共通必修領域

教育研究方法論
実践課題研究

修了要件外科目

教育実践研究 IV

現代的教育課題に関する科目

外国につながる児童生徒の教育
I・II・III・IV

1年次

「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン
学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント
「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン
小学校英語活動の授業デザイン
授業のユニバーサルデザイン論
ICT教育実践論

共通科目

生徒指導実践論
教育相談実践論
学級経営の実践と課題
学校マネジメントと学校改善
学校教育と集団心理療法

複合領域

インクルーシブ教育システム論
ネット教育コミュニケーション論

教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院） 教科教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

教職実践開発専攻（教職大学院）教科教育実践高度化コースを修了するためには、当該課程の標準修業年限 2 年以上在学し、共通科目 20 単位、教育実践研究科目 10 単位、専門科目 18 単位、合計 48 単位以上を修得すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の審査委員会の審査に合格すると、本専攻を修了することができる。

修了した者には、教職修士（専門職）の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：

①全体の方針

本コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力（コンピテンシー）を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

下記枠内に示す。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

- ・様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関わるよう、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- ・主体的に対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- ・教育実践研究（実習）を 10 単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- ・教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- ・大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講されている。

④学修成果の評価の方針

- ・どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- ・どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の大学院生の評価点を決定する。
- ・教職実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

学校や地域の教育を深く理解し、教科教育の授業実践開発及びカリキュラム開発に関する高度な専門的力量と研究開発力を修得するためのカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、教育関連諸科学の知見を動員して、教育現場の複雑な問題を解決する能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、教科に求められる新しい授業実践に対応しようとする幅広い視野と行動力を育成するカリキュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダー力

教科の指導や新しい高度な授業開発において、地域に貢献し、学校を牽引できるリーダーとしての資質を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

研究報告書作成 成果報告会

2年次 教育実践研究 III

学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究

教科等の授業開発・実践研究 I～IV

教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究 I～IV

「豊かな心」を育む授業実践の開発

専門科目

生徒指導問題解決方法 I

道徳教育と生徒指導

健康教育の実践研究 I・II

学校保健の理論と実践

学校と家庭・地域の連携構築

学校の危機管理の理論と実践

教育コミュニケーションデザイン特論

教育実践研究 II

「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン
学校カリキュラム・授業の改善を図るためにマネジメント

「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン

授業のユニバーサルデザイン論

ICT教育実践論

共通科目

生徒指導実践論

教育相談実践論

学級経営の実践と課題

学校マネジメントと学校改善

学校教育と集団心理療法

現代教員論

学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）

複合領域

インクルーシブ教育システム論

ネット教育コミュニケーション論

1年次 教育実践研究 I

修了要件外科目

教育実践研究 IV

現代的教育課題に関する科目

外国につながる児童生徒の教育 I・II・III・IV

教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院） 特別支援教育実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

教職実践開発専攻（教職大学院）特別支援教育実践高度化コースを修了するためには、当該課程の標準修業年限2年以上在学し、共通科目20単位、教育実践研究科目10単位、専門科目20単位、合計50単位以上を修得すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の審査委員会の審査に合格すると、本専攻を修了することができる。

修了した者には、教職修士（専門職）の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：

①全体の方針

本コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力（コンピテンシー）を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

下記枠内に示す。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

- 様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関わるよう、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- 主体的に対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- 教育実践研究（実習）を10単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- 教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- 大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講している。

④学修成果の評価の方針

- どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の大学院生の評価点を決定する。
- 教職実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

学校や地域の教育を深く理解し、特別支援教育に関する高度な専門的力量および校内支援体制コーディネート力、インクルーシブ教育システムに関する専門的知識と研究開発力を修得するためのカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの変容など幅広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、教育関連諸科学の知見を動員して、特別な支援を必要とする子どもに対する高度な問題を解決する能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、特別支援教育に関する現代社会が直面する教育問題に対応するための高度な専門知識と幅広い視野と行動力を育成するカリキュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダー力

学校・地域・家庭との連携を密にして、学校と地域との交流を深め、地域の問題解決の方法を開発し、特別支援教育に関連する分野において、地域に貢献し、学校を牽引できるリーダー力を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

研究報告書作成 成果報告会

特別支援教育実践研究 II

特別支援教育論

発達障害児の理解と支援

コミュニケーション障害児の理解と支援

重度・重複障害児の理解と支援

2年次

特別支援教育実践研究 I

専門科目

特別支援学校カリキュラム・マネジメント論

特別支援学校教科指導演習

自立活動指導演習

心理教育アセスメントの理論と実践

教育支援計画作成演習

通級指導教室・特別支援学級の運営演習

共通必修領域

教育研究方法論

実践課題研究

修了要件外科目

教育実践研究IV

現代的教育課題に関する科目

外国につながる児童生徒の教育 I・II・III・IV

1年次

共通科目

現代教員論

学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）

複合領域

インクルーシブ教育システム論

ネット教育コミュニケーション論

教育実践研究 I

「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン

学校カリキュラム・授業の改善を図るためにマネジメント

「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン

小学校英語活動の授業デザイン

授業のユーバーサルデザイン論

ICT教育実践論

教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院） 教育の国際化実践高度化コース カリキュラムツリー

ディプロマポリシー：

教職実践開発専攻（教職大学院）教育の国際化実践高度化コースを修了するためには、当該課程の標準修業年限2年以上在学し、共通科目20単位、教育実践研究科目10単位、専門科目18単位、合計48単位以上を修得すること。

研究報告書を作成し、教職実践開発専攻の審査委員会の審査に合格すると、本専攻を修了することができる。

修了した者には、教職修士（専門職）の学位が授与される。

カリキュラムポリシー：

①全体の方針

本コースは、教育実践に関する専門的知識・技能を深化させて資質・能力（コンピテンシー）を育成する研究、新しい分野の指導方法や学校・地域の課題解決法の開発などに関する研究力と開発力に支えられた高度な教育実践力を備えた人材を育成するための理論と実践の往還を特徴とするカリキュラムを編成する。

②教育課程編成の方針（「修得すべき知識・能力」への対応）

下記枠内に示す。

③教育課程における教育・学習方法に関する方針

- 様々な専門性を有する研究者教員と実務家教員が関わるよう、多くの授業を、オムニバス方式ではなく共同開講の方式にしている。
- 主体的に対話的に学ぶことを重視し、ディスカッションや発表の時間などを多くとっている。
- 教育実践研究（実習）を10単位設定して、常に、大学院生が、教育現場で学べる体制をとっている。
- 教育実践研究における実習場所は、学校だけでなく、不登校児童・生徒の適応指導教室、非行少年の支援施設、情緒障害児短期療養施設等も設定している。これらの施設で学んだ大学院生は、心理学や教育学を専門とする教員と振り返りミーティングをもち、理論と実践の往還を体験する。
- 大学院生が、地域や学校現場に積極的に出向いてゆき、そこで起こっている問題を現場の人と一緒に考える授業も複数開講している。

④学修成果の評価の方針

- どの授業においても、試験、レポート、授業への積極的関与などの複数の視点から、総合的に評価する。
- どの授業においても複数の教員の意見を総合して、一人一人の大学院生の評価点を決定する。
- 教職実践研究の評価については、普段の指導、日誌、実習先の先生方からの情報などを元に指導教員が作成した原案を教職大学院運営委員会に提出し、委員会で様々な専門性を持った教員が総合的に評価をする。

高度な専門的知識・技能及び研究力

学校や地域の教育を深く理解し、国際化に向けて急速に変化しつつある教育環境において、外国人児童生徒と日本人生徒が共に学び合う教育を実施するために必要な教育の方法（英語と日本語によるイマージョン教育）に関する高度な専門的知識と研究開発力を持ち、教育現場での外国人児童生徒の適切な生活支援・学習支援に係る資質能力を育成するためのカリキュラムを編成する。

学際的領域を理解できる深奥な教養力

現代社会の変化、教職科学の進歩、子どもの多様性や変容の過程など幅広い課題に対応できる高度で普遍的な教養を身につけ、教育関連諸科学の知見を動員して、教育現場の複雑な問題を解決する能力を育成するカリキュラムを編成する。

グローバルな視野と行動力

グローバル化の中で、学校や地域が直面する現代的教育課題に対応するための高度な専門知識と幅広い視野を有し、授業実践・生徒指導・教育相談・学級経営・保健室経営・学校経営など学校現場における課題解決のための積極的な行動力を育成し、課題解決のためのコミュニケーション能力を育成するカリキュラムを編成する。

地域社会を牽引するリーダー力

学校・地域・家庭との連携を密にして、学校と地域との交流を深め、地域の問題解決の方法を開発し、教育の国際化に関連する分野において、地域貢献に資する能力及び学校現場・地域における指導的人材として活躍する能力を育成するカリキュラムを編成する。

教育実践研究科目

研究報告書作成 成果報告会

2年次

教育実践研究 III
教育実践研究 II

教育実践研究 I

専門科目

教科等の授業開発・実践研究Ⅰ～Ⅲ（イマージョン教育）

学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究

教科等の授業開発・実践研究Ⅰ～Ⅳ

教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・

実践研究Ⅰ～Ⅳ

「豊かな心」を育む授業実践の開発

外国語コミュニケーション実践Ⅰ～Ⅲ

学校と家庭・地域の連携構築

学校の危機管理の理論と実践

教育コミュニケーションデザイン特論

共通必修領域

教育研究方法論
実践課題研究

修了要件外科目

教育実践研究Ⅳ

現代的教育課題に関する科目

外国につながる児童生徒の教育
I・II・III・IV

共通科目

現代教員論

学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）

生徒指導実践論
教育相談実践論

学級経営の実践と課題

学校マネジメントと学校改善

学校教育と集団心理療法

複合領域

インクルーシブ教育システム論

ネット教育コミュニケーション論

1年次